

5月7日(月)  
科学コミュニケーション研究会 関西支部勉強会  
京都大学 吉田泉殿

東島仁 大阪大学 大学院文学研究科/日本学術振興会特別研究員 (PD)

疾患研究に、誰の視点をどう取り込むか？

- 英国の取り組み事例とその背景 -

□話の流れ

1. 生命医科学に市民視点を取り込む？  
【英国の場合】 背景・目的・活動の主体を整理する
2. 研究結果の当事者への貢献度UPを目指した活動例紹介  
・アドボカシー、チャリティーなどの団体の取り組み

例) ロビイング  
業界研究的活動  
研究情報発信・イベント企画  
研究助成 (研究者育成・萌芽・プロジェクト/研究拠点)  
ジャーナル

団体の意志決定に関わる当事者グループを持つ  
他

・当事者の取り組み (双極性障害など)  
例) Service User researcher

・研究者側の取り組み  
※プロジェクト、研究者集団 (小) レベルの場合

例) User Group  
倫理審査への対応  
カフェや講演会など (ただの交流)  
議論のための対話の場を持つ (一過性の)  
他

3. 研究者側からの取り組みにおける成功例に共通する点は？